庄原自治振興区だより

第186号　　令和４年 ４月20日 発行

〒727-0013
庄原市西本町二丁目 18-8-401
TEL/FAX
(0824)72－3777

子ども将棋教室 大会で終了しました!

生涯学習事業の一環として、昨年 10 月から本年 3 月まで半年間にわたり、月 2 回 “子ども将棋教室(講師：亀山紀林さん)”を開催しました。教室には小学生を対象に初心者と、経験者を合わせ 21 名の参加がありました。新型コロナウイルス感染拡大により 1 月・2 月は休止しましたが、半年間の長丁場にもかかわらず、一回も休まず出席した子どもが 6 名もいて、意欲のある教室となりました。最終日の 3 月 26 日(土)には、成果を試す将棋大会を開催。終始緊張した雰囲気の中で、真剣勝負が繰り広げられ、勝負に敗れ涙する子どももいて意欲が伝わってきました。初心者の部優勝は、穐田歩武君(庄原小 3 年)、経験者の部は熱戦のすえ、松尾大慈君(庄原小 3 年)が優勝しました。

表彰式の後、講評として亀山講師から「これからも将棋とのつながりを日々忘れず友達の輪を拡げて欲しい」とありました。

初心者も経験者もいつもと違った大会とあって盛り上がり、白熱した大会となりました。

出場者募集！
第 14 回　区民グラウンド・ゴルフ大会

日　　時：令和 4 年 6 月 5 日（日）
場　　所：庄原市上野総合公園陸上競技場
受付開始：8 時～
開 会 式：8 時 30 分～

※申込書は、4 月に回覧しています、自治会ごとに申し込みをお願いします。
※申込締め切りは 5 月 13 日(金)です。各自治会長にお問い合わせください。(少雨決行)

3 月役員会報告

(3 月 22 日) 協議事項等は以下の通りです。

(1) 令和 4 年度通常総会関係について
◆提出書類・・・・・・・・・・・・世帯数提出：4 月 8 日(金)、代議員名簿提出：4 月 19 日(火)
(2)令和 4 年度堆積土砂取り除き清掃実施について
◆実施日時・・・・・・ 4 月 24 日(日)、午前 7:00～午前 9：00(当日午前 9 時から土砂を回収)
(3)第 14 回区民グラウンド・ゴルフ大会の開催について
◆申込期限・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5 月 13 日(金)　組み合わせ会議：5 月 24 日(火)
(4)「花と緑があふれるまちづくり」事業の取り組みについて（今年は、3 回に分けて取り組みます)
◆計　画：1 回目 3 月 16 日～5 月中旬、2 回目 5 月中旬～10 月下旬、3 回目 11 月上旬～5 月中旬

上野池クリーン作戦

令和４年３月 29 日(火)『上野池クリーン作戦』に総勢 40 人が参加(庄原自治振興区 32 人・庄原まちなか観光会議 7 人・上野池水利組合 1 人)。空き缶等不法投棄ごみ 20 袋を回収し、多くの皆さんが“さくら満開の上野公園”を満喫いただけるよう環境整備を行いました。

自治会活動紹介

⑫ 西県住自治会　　林 真紀（前自治会長）

西県営住宅は庄原小学校の南側に位置し１棟と２棟を合わせて 50 室あり、現在は 34 軒が入居されています。

自治会では毎月 １ 回の定期清掃を全員参加でおこなっており、敷地内はいつもきれいに保たれています。そのせいでしょうか、長年住み続けていますが、１度も蚊を見たり、刺されたりしたことがありません。

又、自治会では災害等に伴う避難指示や、避難誘導が発令された場合にそなえ、階段ごとに役員を配置し、高齢者等へは必ず声掛けをして、安心して過ごして頂けるよう努めております。

早くコロナが収束し、自治会活動が出来る様になることを願っています。

～ いにしえの郷「庄原」からのつたえごと ～ No.24

シリーズふるさと歴史文化散策　近代 ４

《 明治の郷土小話 ：比婆牛を食べるということは歴史を食べるということです 》

比婆郡を中心とする備北地域は、落葉樹林の丘陵性平原に富み放牧に適し、タタラ鉄穴(かんな)跡など、“のろ”と呼ばれるなだらかな山地は樹木がなく、草原に深い霧が漂い天然の牧場となります。

牛の放牧期間に刈り取った山草は、乾燥させて冬季間の飼料として蓄えられますが、このことは農家で多頭飼育を可能にしました。また化学肥料のない当時、牛や馬が作る厩肥(きゅうひ)は農家において、かけがえのない有機肥料でした。こうした中国山地特有の風土にあって、役牛の飼育は農家の副業として重視され品種改良も進みました。良い牛の商品条件を「天角地眼鼻重無毛一黒肋骨」といい、角は上向き・目鼻は共に下向き・体毛は純黒・肋骨を強く張った牛が良いとされました。

体形は、臀部に肉が多いと牽引力が乏しく耐久力も低いので役牛不向きとされ“ブタジリ”と呼ばれて嫌われ、反対は“ケツボソ”です。また、肩に肉が少ないと鞍ずれがしないので “カタスボリ”といって喜ばれました。備北地方牛は、体格が貧弱で頭が大きい割には後半身が小さく、肉量も少なく見栄えがしなかったと言われています。多くの先駆者が品種改良に努め、明治 33 年５月には七塚原(七塚町)に、日本で初めての国立種牛牧場が開設されました。特に、比和村(比和町)布見出身の岩倉六右衛門(文化 14 年 1817 年～明治 29 年 1896 年)は、天保年間にメス牛を主系とする品種改良、飼養管理法の改善に着目して「岩倉蔓(つる)」と呼ばれる「蔓牛」の固定化に成功しています。この黒毛和牛が普及し名牛としての声価を高めていきます。昭和 23 年には国の代表的な蔓牛として、岩倉牛の原牛が発祥した吾妻山牧場にちなんだ「吾妻蔓」の名前が与えられました。

この他、比婆郡帝釈の「有実蔓」甲奴郡田総(総領町)の「滝尾蔓」平郡(神石高原町)の「平神石牛」も誕生しました。もともと県北には、牛分限者(大博労=大馬喰)と呼ばれる、豪農・有力な家畜商が牛を持たない農家に牛を預け飼育する「牛小作」という風習がありました。利益配分は「一本片爪」といって初産の場合は８分の３(約 37%)が小作の権利です。４本足には爪が８個あるので１本片爪は爪３個にあたります。幼牛は三歳で出産します。また「預け牛」という風習もありました。明治 37(1904)年の「預け牛定約書」では、牛市で買った牛を翌年の牛市まで養育する条件として次のように契約しています。①飼主(農家)は持主から 28 円で養育する牛を買い取る、②持主は、飼主から 40 円で買い戻す、③45 円以上で売れた時はその差額を折半する、というもので、飼主(農家)の手取りは 12 円となり、当時としては米小作よりはるかに有利でした。

牛分限者は、牛小作の他にも「鞍下牛(くらしたうじ)」によっても利益を上げました。これは田植え時期(3 月末から 60 日間)に限り、馬喰の仲介を経て体力のあるオス牛を農耕用の役牛が必要な農家に貸し出す慣習で、賃貸料は４斗俵で３俵が相場でした。また、比和町の農家が自家で育てた役牛(オス牛)を直接庄原の農家と取引して貸し出す場合、鞍下牛とは呼ばず「麦取牛」と呼びました。これは、相場(約３週間契約)が麦２俵～３俵だったからだそうです。「コッテー(オス牛)の麦取り」といわれるものです。(『ふるさと民俗手帳』『奥備後の民俗史』『比和一日一話』)。

明治時代、一般人が軍隊に入って兵営生活で肉食を経験し、除隊後もその美味さが忘れられなかったことで、肉食が普及したことは広く知られていますが、軍隊での肉料理の特色は牛肉の缶詰です。牛缶の主力である大和煮はしっかりと味付けがなされ、調理が不要で保存性と携帯性に優れていますが、蒸してから煮るというその製造過程で旨味でもある脂肪分が溶け出します。

したがって、原材料はサシの入った柔らかい肉質よりも、オス牛や老牛などの赤身の肉質の方が適します。軍隊用では脂肪交雑のすき焼き肉は缶詰に適さず評価されません。日支事変が始まり牛の責任供出制が引かれますが、軍隊が求めた駄牛の供出は、結果的に民間が目標とする肉質牛(黒毛和牛)を産牛地帯に温存させる結果となりました。この間、中国山地の肉牛種改良は順調に進行して昭和 19 年品種としての黒毛和牛が固定します。糧食として多量の牛肉を必要とした軍隊ですが、なぜか黒毛和牛の改良には干渉しませんでした。

24 回に渡って「ふるさと歴史散策」を掲載して来ましたが、今号をもって終了と致します…。

《 文・構成　庄原自治振興区 歴史文化継承委員会 》

卒園おめでとうございます！

永末保育所

3 月 26 日(土)、永末保育所卒園式を行い、5 名の卒園児をお祝いしました。卒園証書を受け取り、小学校でがんばりたいことを発表しました。保育所でたくさんの経験をし、自信がつき大きく成長した子どもたちは小学校へと期待が膨らんでいます。

さて、永末保育所は来年度の入所希望がなく、4 月から休所することになりました。2 名の年少児も別の場所へ。職員もともに新たなスタートをきります。なかなか、新型コロナウイルス感染症の影響で地域の皆様との交流も出来にくくなりましたがいつも気にかけていただき、温かい協力や見守りに感謝でいっぱいです。また、再開できる日を願いたいと思います。ありがとうございました。

庄原保育所

3 月 26 日(土)、令和 3 年度庄原保育所卒園式を執り行いました。新型コロナウイルスの影響で様々な行事が中止される中ですが、保護者を招いて無事に卒園式を挙行することができました。式は卒園児を温かく包み込むような雰囲気の中で執り行われ、卒園児の門出を笑顔と拍手、そして涙で祝いました。

卒園児 37 名は堂々と卒園証書を受け取り、新たな社会への一歩を踏み出しました。卒園した園児は 5 つの小学校に入学していきます。庄原保育所で育んだ思いやりある行動を、小学校でも発揮してくれることと思います。

庄原幼稚園

今年度の卒園式も、コロナ禍での開催となりました。保護者の方々と先生方が見守るなか、園長先生から 12 人の卒園児一人一人に卒園証書が手渡され「これからも自分を、そして、お友だちを大切にして、お世話になった多くの方々への感謝の気持ちを忘れずに、どんなことにも一生懸命頑張る、そんなかっこいい小学生になってください」と、お祝いの言葉がありました。そして思い出ビデオの上映後には、卒園する子どもたちが、幼稚園での思い出の数々をお別れのことばに込めて堂々と発表しました。(卒園式 3 月 25 日(金))

5月の振興区主催行事予定

10 日(火)	理事総務企画室合同会議	13:30～
17 日(火)	環境美化防犯パトロール	9:00～
	(紅屋、東上、東本通 1・東本通 2 の自治会長)	
17 日(火)	**庄原自治振興区通常総会**	**13:30～**
24 日(火)	役　　員　　会	13:30～
	毎週 1 回青少協防犯パトロール	16:30～

編 集 後 記

今、世界はロシアによる国際法を無視した蛮行に対し怒りに震えている。

3 月 1 日の中国新聞にウクライナとロシアのこれまでの経緯(いきさつ)の記事が掲載されたので原文のまま紹介します。「ウクライナは 91 年、崩壊寸前の旧ソ連から独立。領土には世界第 3 位規模にあたる数千発の核兵器が残った。ウクライナはその全てを手放し、代わりに安全保障を要求。米国・英国・そしてロシアが合意し 94 年に覚書を交わした。ところがロシアは 2014 年ウクライナ南部のクリミアを強制編入、さらに今回の侵攻に踏み切った。」ロシアの手前勝手で理不尽な蛮行には何一つ正当性がない。

岡田 記